平成30年度　島根県学力調査結果及び分析・対策（松江市立佐太小学校）

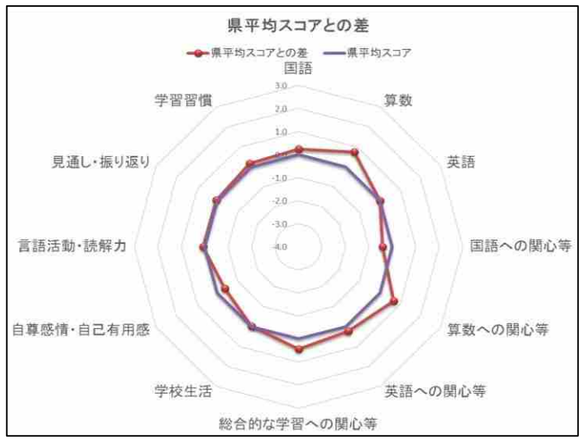
平成31年2月15日

（1）学力調査結果から見られた傾向

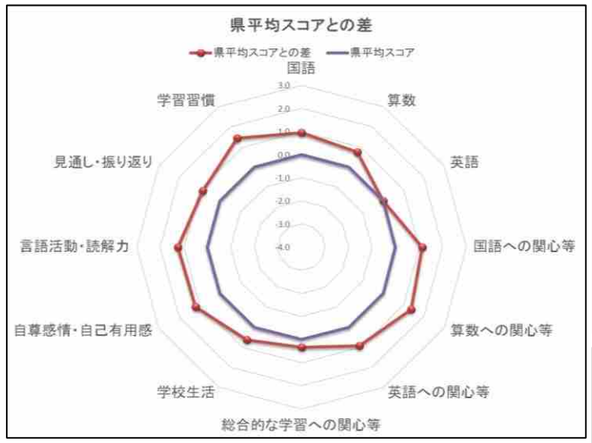
		成果と課題（○：成果、●：課題）	対策
5年	国語	○県平均をわずかに上回った。特に漢字の読み書きと効果的表現を用いて文章を書く問において正答率が高かった。 ●複数の叙述を比べながら、表現のしかたの違いについて条件に合わせた文章表現する問いで正答率が低かった。	・授業の中で、物語文の登場人物の行動や気持ちの変化を、表現や叙述を手がかりに読む活動を大切にした指導の工夫を行う。 ・自分の考えをまとめたり条件にあった文章を書いたりする活動を、他教科でも意図的に設定し繰り返し取り組ませる。
	算数	○県平均を大きく上回った。特に小数の乗法について正答率が高かった。 ●四則計算の順番と図形の性質をもとに説明をする問いで正答率が低かった。	・四則計算の順番について、計算ドリルや配信プリント等を利用し繰り返し学習し定着を図る。 ・今後の角柱と円柱の学習において、平面図形についてもう一度取り上げそれぞれの性質について正しく理解させる。また、授業中に自分の考えを簡潔に文章にする活動を多く設ける。
6年	国語	○すべての領域で、県平均を上回った。特に、資料をもとに情報を整理しながら書く、段落相互の関係を理解し文の構成を捉える等の問いで正答率が高かった。 ●複数の文章を読み、内容の違いを捉えて、文字数や使用語句などの条件を理解し、簡潔に文章表現する問いで正答率が低かった。	・漢字やローマ字、接続語などについては理解が高い現状にあるので、さらに復習を繰り返し、確実な定着を図る。 ・与えられた条件を満たす文章表現に苦手意識を感じる。日記や感想文等日ごろから意識的に条件作文を書く課題を与え、慣れ親しむことで自身つなげる。
	算数	○すべての領域において、県平均を上回った。特に、基本的な四則計算、平面図形の面積、分度器の利用、円グラフの読み取りなどに関する問題において正答率が高かった。 ●立式の理由を順序良く振り返って考え、文章で表す問いにおいて正答率が低かった。	・今後「6年のまとめ」としてすべての領域について復習する際、県調査の正答率から重点課題を意識しながら進めていく。 ・数学的な考え方を養う学習において、用いた資料の利用方法や立式について文章で説明する機会を多く設けることでさらなる理解につなげる。

（２）各学年・各教科の調査結果チャート

5年



6年



（参考）　平均正答率

		国語	算数
5年生	本校	67	72
	松江市	63	55
	島根県	63	55

受検者数
5年生　14　人

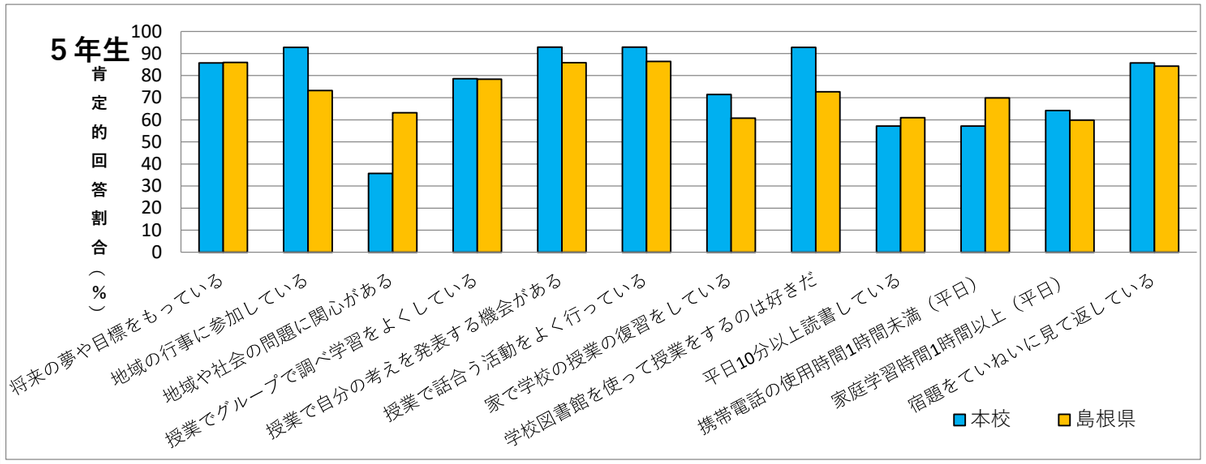
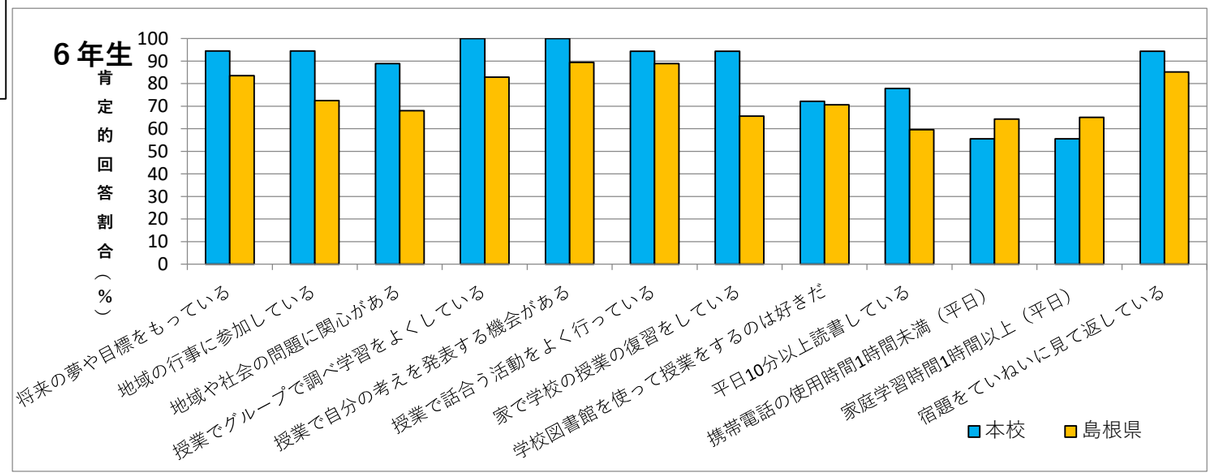
（参考）　平均正答率

		国語	算数
6年生	本校	84	75
	松江市	69	60
	島根県	67	59

受検者数
6年生　18　人

各スコアの範囲は－4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。
スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

（3）生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

		成果と課題（○：成果、●：課題）	対策
5年	授業改善に関わる事項	○「学校図書館を使って授業をするのを好きだ」と答えた児童の割合が高かった。 ●国語への関心が低かった。また、地域や社会の問題に関心がある児童の割合が低かった。	・新聞やニュースなどから気になる話題を紹介するスピーチタイムを設け、時事に対する関心を高める。 ・辞書を引く習慣をつけて語彙力をあげることで国語への自信につなげる。また、読書旬間など学年相応の図書を読む機会を設ける。
	家庭学習に関わる事項	○「家で授業の復習をしている」、「家庭学習時間1時間以上」と答えた児童の割合が高かった。 ●携帯電話の使用時間1時間未満、家庭での読書時間について肯定的回答が低かった。	・携帯・スマホ利用については、健康チャレンジ週間での取り組みや学級懇談等を通じて児童・保護者と共に考える。 ・週に1回図書館で必ず本を借りる日を設け、いつでも手元に読む本がある状態にする。
6年	授業改善に関わる事項	○授業改善にかかわる項目は、肯定的な回答がほぼ9割を超えている。特にグループ学習や授業への意欲的な参加については意識が高い。 ●「算数の勉強は好きだ」と答えた児童が8割程度で、国語よりも若干低かった。	・個人→ペア→グループ→全体の流れを大切にした対話の形態が身についてきている。今後も児童が主体的に話し合い学習に向かっていく「佐太小スタンダード」を確立していく。 ・身近な話題から算数を考えることを心掛ける。（学校行事から、新聞記事から、地域の話題から）
	家庭学習に関わる事項	○家で授業の復習をしている、家で読書をしている児童の割合が高かった。自主学習ノート利用の定着や読書への意欲がうかがえる。 ●携帯電話・スマホの利用時間、家庭学習時間については、県平均に比べ肯定的回答が低い傾向にある。	・家庭学習時間は、学力が比較的高い集団なので宿題等を短時間で終えてしまうことが考えられる。中学校進学に向けて学年のまとめをしっかり家庭でも行うよう課題を与えていく。 ・携帯・スマホ利用については、健康チャレンジ週間での取り組みや学級懇談等を通じて児童・保護者と共に考える。

（4）生活・学習に関する意識調査の結果